



世界遺産登録推進シンポジウム2021

『立山砂防防災遺産シンポジウム』

-日本固有の防災遺産 - 立山砂防の防災システムを世界遺産に-

○日時：令和3年10月30日（土）13：30～17：00

○会場：富山国際会議場 メインホール

～プログラム内容～

- ◆基調講演：『世界遺産を活かしたまちづくり』  
宗田 好史 氏（京都府立大学教授）
- ◆「立山砂防・土砂との闘い」アニメ映像上映
- ◆「富山県の立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組み」報告
- ◆パネルディスカッション

※時間の都合により、アニメ映像上映は中止



来賓挨拶

三上 幸三 氏  
（国土交通省 水管理・  
国土保全局砂防部長）



報告

『富山県の立山砂防の世界文化遺産登録への取組み』

新田 八朗  
（富山県知事）



講演 I



宗田 好史（京都府立大学教授）



『世界遺産を活かしたまちづくり』  
お話しさせていただきます。

- ・世界遺産の活用は、まちづくりの重要な要素である。
- ・しかし、世界遺産への活用が難しく、うまくいっていない。
- ・世界遺産登録推進の重要性を、改めて認識する必要がある。
- ・（1）目的の明確化：まちづくりの目的を明確にする。
- ・（2）関係者の連携：関係者の連携を強化する。
- ・（3）資金の確保：資金の確保を確保する。
- ・（4）人材の育成：人材の育成を確保する。
- ・（5）評価の導入：評価の導入を確保する。
- ・（6）持続性の確保：持続性の確保を確保する。
- ・（7）透明性の確保：透明性の確保を確保する。
- ・（8）説明責任の確保：説明責任の確保を確保する。
- ・（9）参加の確保：参加の確保を確保する。
- ・（10）協力の確保：協力の確保を確保する。

略歴

法政大学工学部  
イタリアピサ大学・ローマ大学大学院 都市・地域計画学を専攻。  
工学博士（京都大学）、国際連合地域開発センター主任研究員を経て、1993年より京都府立大学教授、東京文化財研究所客員研究員、日本イコモス国内委員会理事、京都市景観まちづくりセンター理事、京町屋再生研究会理事などを歴任。

パネルディスカッション

国内外の有識者を交えて立山砂防の顕著な普遍的価値について「立山砂防の世界遺産に向けた評価」、「立山砂防の世界遺産登録を見据えた活用方法」、「世界遺産登録に向けた今後の取り組み」とのテーマで議論されました。



コーディネーター  
西村 幸夫 氏  
（日本イコモス国内委員会顧問）



パネリスト  
宗田 好史 氏  
（京都府立大学教授）



パネリスト  
小山内 信智 氏  
（政策研究大学院大学教授）



パネリスト  
松浦 晃一郎 氏  
（第8代ユネスコ事務局長）



パネリスト  
北河 大次郎 氏  
（文化庁文化財調査官）



パネルディスカッションの様子